

新島襄物語

「米国に密航し、同志社大学を作った青年、新島襄」

荒木紀幸作

(第一話) 脱出までー鎖国時代、命がけで憧れの自由、文明、キリスト教の国、

アメリカに脱出を試みた若者の話です

新島青年は譜代大名家、江戸の安中藩邸、現在の神田錦町学士会館付近に下級武士の子どもとして一八四三年二月十二日に生まれ(幼名は七五三太)、四方を上級武士の大きな屋敷に囲まれた狭い敷地で育った^{注①}。一家は常身分の高い人たちに気を遣って生活していた。九歳の時、こめかみに大怪我をしてからは、荒っぽい遊びを一切止め、手習いや絵、礼儀作法を習った。十歳で学問所で漢学を、十三歳で藩主板倉勝明から三人の一人に抜擢され蘭学を学ぶ。翌年蘭学教師が長崎に出張し中断。十四歳、思いもかけず藩主が亡くなり、後を継いだ弟は学問嫌いで、それまで引き立ててくれた家老や漢学の師が亡くなり、これから勉強を続けられるかと悲嘆にくれた。十六歳、藩主の外出帰宅時の出迎え職に就く。執務室での待機になじめず、隠れて蘭学を勉強して何度も上司に叱られた。十七歳、江戸湾に何隻も停泊した恐ろしく大きなオランダ軍艦に肝を潰した。軍艦操練所に入所を許され、アメリカ帰りのジョン万次郎に航海術を学んだ。十八歳、行燈のうす明かりの下で本を読みすぎ、眼を痛めた。十九歳の時、操練所の経験を買われ、アメリカ製帆船快風丸(ゴトン)で三ヶ月間航海し、開放感を満喫。海の外の世界に関心が向う。上意下達という息苦しい封建社会の中で二十歳になった新島は英学も学び始めた。国禁^{注②}の「アメリカの歴史地理」を命の危険を感じながら隠れて読んだ。アメリカでは大統領を選挙で決めることや授業料のいらない学校があることを知り^{注③}、「すべての国の為政者はアメリカの大統領のようでなければならぬ」と考えた。こうして新島青年は幕府の政策に不満をつのらせていった。また漢訳聖書の説く天地の創造主に強く憧れ、「ロビンソン漂流記」の主人公が冒険の

旅に出た姿に勇気づけられ、自由とキリスト教の国、アメリカに行ってみたいと考えようになった。

そんなある日、松山藩の快風丸乗組員の友人、塩田虎尾から、「四、五日後に快風丸が江戸を出て函館に向うことになつてゐるが、乗船する気はないか」とたずねられた。それを聞いた新島青年に、突然、『この好機を逃すな、海外へ脱

出^{しゅつ}を^{はか}図^えれ』という良心の聲が心の奥から聞こえ、それと共、快風丸に無償で乗船する合法的な方法が頭に浮か

んだ。それは、安中藩主の本家筋にあたる松山藩主が所有するアメリカ製の快風丸が江戸から倉敷に向けて初航海することになり、航海術の心得のあるものとして、板倉周防守が新島に修業を仰せつけるという形で乗船の許可を与え

られたことがあつた。そこで藩の目付役飯田逸之助を介し板倉周防守宅を訪ねたところ、喜んで出張許可と乗船勤務を承諾してくれた。その上、安中藩の「承諾」の手配もしてくれた。その夜は興奮して殆ど寝られなかった。

翌日、主君からの許可が届けられた。新島はそのことを知ったとき、感激して思わず、「ああ天、我を棄てざるか」と叫んだ。こうして、函館行き(武田斐三郎の塾へ留学)が決り、近所の人や友を交え水杯の送別会^{注⑥}が行われた。藩主から修業料手当等十五両を貰い、餞別を含め二五両を持って、アメリカへの脱出を胸に秘め、我が家を出発した。

武田は江戸開成所教授就任で不在。塾長の菅野精一郎は親身に七五三太の相談にのつた。英語を学ぶならロシア領事館聖堂のニコライ司祭を紹介。一ヶ月後、新島は日本語教師として古事記を教え、ニコライは求めに応じ、施設、

薬剤共に優れたロシア病院で目の治療を受けさせ、代数学(英語版)を与えたが、日本語のできないロシア人英語教師に失望。この悩みを知った菅野と旧知の沢田拓馬(坂本龍馬の従兄弟)は英語堪能で海外に詳しい英国貿易商社員の福士卯之吉^{注⑥}を紹介した。その後も沢田はアメリカ行の船を探し、決行日に自宅で菅野、塩田と送別会を開いている。

福士卯之吉と意気投合した新島は、なぜ自分は、親や家族と別れ、危険をかえりみず、アメリカに脱国したいか、アメリカではキリスト教を学び、学校で様々なことを学び、日本に尽くしたいといった熱い思いや志を語った。福士も喜ん

で協力すると約束した。一週間しないうち、沢辺拓馬から話を聞いたとアメリカ人船長セイヴォリーが、「自分は中国まで新島を連れて行くことができる。中国まで行きさえすればアメリカに渡る機会はある」と商社に現れた。こうして福士と船長の二人は船に乗り込む準備を急いだ。新島は自分が急にいなかったことで脱国を疑われないように、知人に「実家に呼び戻されたので、近々江戸に戻る」と話した。新島は周りの人に悟られないように、町人の服装をし、函館の通りを歩くときには人目につかないように注意した。太刀は差さず、ちゃんまげも簡単な形にした。当時の新島の服装を知る手がかり、渡米後アーマスト大学で一八七〇年に求められ、脱出当時の扮装をして撮った写真は左上である。下はロシアの司祭ニコライの勧めで撮った二二歳の脱出前の写真を基にした新島青年の肖像画(油絵)である。一八六四年



1870年3月アーマスト大学で級友の希望で脱出当時の扮装で撮影、当時27歳



司祭ニコライの勧めで撮った写真を元に原田直次郎が描く肖像画、21歳

(二二歳)、脱国の日、七月十七日の夜半、新島は沢辺宅から築地に向った。砂浜を歩くとギユ、ギユという雪駄の音に犬が反応して吠えるのを恐れた新島は慌てて雪駄を脱ぎ棄て、足袋で福士

のところまで来た。福士は、雪駄が脱国の証拠品となつてはまずいと考え、裸足で飛び出して雪駄を家まで持ち帰った。細心の注意を払って二人は裏口から出て岸につないだ小舟に乗り込んだ。**注**新島は急いで船底に身を潜め岸から舟が離れるのをじっと待った。そのとき、見張りの役人が近づき、震える声で、「そこにいるのは誰か」と聞いてきたので、福士が落ち着いた口調で「私です。アメリカ船船長の依頼品を急ぎ届けるところです」と応え、顔見知りの福士と分った役人は舟を改めることなく黙って舟の離岸を認め、新島は無事乗船に成功した。手持ちの金はたった四両であった。



新島青年を上海からボストンに運んだワイルド・ローバー号

(第二話) アメリカ時代 ― 青年はハーディ夫妻に出会い、支援を受け、清教徒の町 アンドーバーで高校、大学、神学校で学び、卒業しました

一八六四年(二一歳)、七月十七日夜半、福士宇之吉は岸からかなり遠く離れて停泊していたアメリカ船に小舟を漕いだ。船長は岸から見えない船の反対側で待っていてくれて、私は福士に別れを告げ、固い握手をし、ベルリン号に乗り込んだ。福士が岸へ漕いで帰るのを見届けた船長セイヴォーリーは私を船室の物置に隠し、鍵をかけた。翌朝早く、税関の役人による検査が終って船は出航した。正午近くになって船長が鍵を開け、物置から甲板に出て見た景色は、まさに、函館の美しい町が水平線に消えようとしていた。船は海岸に沿って進み、十二日後には見え隠れしていた青い山々も消えた。それから三日後に船は上海に着いた。青年は船賃のない自分のために用意してくれた仕事に精を出していたが、あるとき、英語ができないため乗客から言いつけられた仕事を理解できないことがあり、その男から唐突に殴られる事件が起きた。「無礼な」と激怒した新島が、慌てて日本刀を取りに戻ったが、自分を、「この程度のこと」が耐えられなくてどうしてこれから試練に立ち向うことができるか」と恥じ、以後よく考え行動すべきである」と心に誓った。その後武士の命とされる鬚を切り落とした。

上海に着いたベルリン号は再び日本に戻るのので、セイヴォーリー船長はアメリカに向う米船に乗せるため、新島を大きな三本マストのワイルド・ローバー号の船長、ホレイス・ステイラーに引き合わせた。このとき、「お願いです。アメリカに着いたら勉強がしたい。学校に行かせて下さい。そのためには乗船したら力の限り働きます。」と新島は願い出た。船長は笑って「わかった。学校に行かせる。船長付のボーイで働いて

もらう。」と約束し、服や帽子、靴をくれた。新島二二歳の一八六五年、船は上海を發ち、福州で木材を積み、再び上海に戻り、サイゴンから香港に行き、マニラ經由でボストンに向った。テイラー船長^{注⑥}は船中で新島を「Coe(ジョー)」と呼び、我が子のように可愛がり、聖書を与え、英語や航海術、航海日誌の付け方、緯度、経度の測定の仕方を教え、乗船の礼に新島から贈られた太刀をととても喜んだ。船はマニラを出て四ヶ月後、南北戦争が終わった三ヶ月後の一八六五年の七月二十日にボストンに着いた。

その後まもなくして、テイラー船長がコツド岬の家族に会いに出て、新島は一人港に取り残された。船内で船員からあれこれと掃除や雑役を強いられ、おまけにボストンは戦争で物価が上がり、お前を助ける奇特な人は誰もいないと脅され、先の見通しが立たない不安に押しやられた。そんな中、上海で別れたセイヴォリー船長^{注⑦}が突然現れた。ワイルド・ローバー号の入港を知り、新島が無事着いたか確かめようとしたのである。新島はどんなに驚き、喜んだことか。憂鬱な気持ちに吹っ飛んだ。心も落ち着き、古本屋で英文のロビンソンクルーソーを見つけ、買って帰り、何度も繰り返し読んだ。クルーソーが神に救いを求めて毎日祈っている姿に、新島も「どうか私の大きな志をとげさして下さい」と、神に救いを求めて祈るようになった。

三ヶ月後、テラー船長の手紙に気づいた敬虔な清教徒、船主ハーディー夫妻が現れ、新島の脱国の志にいたく感動した^{注⑧}。夫妻はジョゼフ・ニイシマ(Joseph Hardy neesima)と名付け、生涯に渡って支援を惜しかなかった。青年の向学心を考え、夫妻とボストンの北四十kmにあるアンドーバー^{注⑨}へ汽車で向った。全寮制フィリップスアカデミーの校長はハーディーが推薦する新島の英語科編入^{注⑩}を認めた。夫妻は英語ができない新島のために下宿生活を用意した。二二三歳、新島はアカデミーと隣接するアンドーバーの教会で洗礼を受け、キリスト教徒となる。二四歳、一八六七年、フィリップスアカデミー卒業、アマーフト大学^{注⑪}専科生となり寮生活を始めた。二五歳、アマーフト大学の三年生に編入。

二七歳、リュウマチを患う。アマースト大学を卒業（日本人初の理学士）、アンドーバー神学校入学、牧師をめざした。
一八七一年、二八歳、外交官森有礼^{注①}とボストンで会見。国禁を犯した新島の帰国実現のために骨折った森から、留学免許状と旅券が届き、新島は自由な身となった。新島はアメリカで自分が受けた養育費、教育費の一切を日本^{ほん}政府が立て替えたいと、森有礼がハーディー夫妻に申し出る意向であることを知った。もしハーディー夫妻が森の申し出を受け入れてしまうと、自分は日本政府によって拘束されてしまう。自分は自由な日本公民でありたい、神様のために自分を捧げ、つくしたいと願っていたことができなくなると恐れた。しかし、ハーディー夫妻は、『即、断った』という話を聞いて、新島は胸を撫で下ろした。

二九歳、三月にワシントンの日本大使館を訪れ、森有礼に会い、蘭学仲間の津田仙の娘梅子（八歳）と出会う。翌日岩倉具視の大使節団の木戸孝允^{注②}と懇談した。文部理事官田中不二麿^{注③}と会見し、教育事情視察に関する通訳の仕事の委嘱を私的な形でならと引き受けた。新島らはアメリカ東部の諸学校を視察、その後欧州航路の船に乗り込み、ロンドン、パリ、スイス、ドイツ、ロシア、オランダ、デンマークの教育事情を視察し、新島はベルリンで約五ヶ月をかけ田中の復命報告書^{注④}を作った。この間、田中の「帰国して国政をいっしよにやろう」との懇願を何度も断っている。

三十歳、リュウマチ治療でウィスバーデンに五ヶ月留まり、九月パリからニューヨークに戻り、神学校に復帰。三一歳、新島は五月に宣教師志願者試問に合格、アメリカン・ボードの日本国準宣教師に任命された。アンドーバー神学校卒業式で記念スピーチを行う。その後海外伝道協会の総会でキリスト教主義大学を日本に設立することを涙して訴え、五千ドルの寄付が^{注⑤}集まった。一八七四年十月、ハーディー夫妻と別れ^{注⑥}、シカゴ經由太平洋横断鉄道でサンフランシスコに十月二九日に着く。十月三一日にコロラド号に乗船し、十一月二六日夕方、横浜港に着いた。宣教師に迎えられ、十年ぶりの帰国であった。

(第三話) 日本に帰国してー青年は京都にキリスト教主義の同志社英学校、

後の同志社大学の礎を作りました

一八七四年十一月、十年ぶりに新島は三一歳で帰国。二八日東京から人力車三台を貸し切って出発、中仙道を通つて、食事のほかは休憩を取らずに二十時間かけ、深夜に群馬県安中に到着。翌日、両親や姉たちと再会。約一月の間、寝食を共にした。アメリカで勉強していた人物の顔を一目見ようと、異国の珍しい話を聞こうと、遠方から訪ねてくる客も後を絶たず、新島も求めに応じて西洋の文明や教育事情、キリスト教について話した。小学校やお寺でも話をしたが、新島への異常な関心に役人は中央に伺いを立てたが、新島なら心配無用の返事でおとがめはなかった^{注④}。

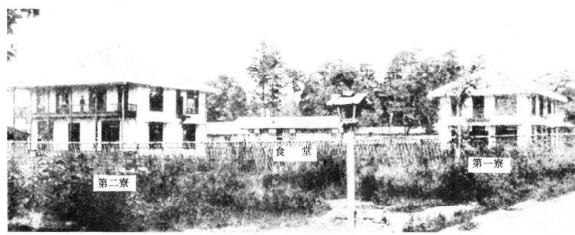
十二月二八日、文部省の田中不二麿を訪ね、帰国の挨拶をする。三二歳、七五三太を裏(Joeon)と改めた。アメリカンボードの指示で一月二十日横浜を船で立ち、二二日大阪着。宣教師ゴードン(アンドーバー神学校の旧友)宅(川口居留地)で布教と大学設置の準備を始めた。大阪に滞在していた木戸孝允を訪ね、大学設立の協力を依頼。木戸も積極的に大阪府に働きかけた。候補の学校が渡辺知事の外国人宣教師採用拒否にあつて頓挫。なおこの二年後の一八七八年、キリスト教主義の梅花女学校(後の梅花女子大学)が浪速教会牧師の沢山保羅によって大阪に設立された。

学校をどこに設けるかで神戸も候補にあつたが人口が五万人と少ないのであきらめ、新島は、三十万人の京都がどんな町か見ておきたいと四月五日に京都に向つた。京都府副知事(後に知事)榎村正直を訪問し、面談を重ねた。榎村は長州の出で木戸孝允と親しい関係にあつた。榎村は京都府顧問の山本覚馬^{注⑤}を紹介し、新島は山本邸に行き、挨拶を交した。山本のことはゴードンから聞いていたので、話はキリスト教のこと、キリスト教主義の学校設立に及んだ。それ

は比叡山を琵琶湖に投げ込むように不可能と言われていた。山本は京都をその学校の候補地にすすめ、自分名義の御所の北側の相国寺門前町の土地、当時は一面の桑畑（旧薩摩藩邸）を学校建設用地として安く手放す（坪数五八五五坪、代金五〇〇円）と話し、新島もこれに同意した。これを機に新島は大阪を離れ、山本宅に住み込んだ。

新島は覚馬とゴードンで同志社を結社し、八月二三日に『私塾開業願い』を京都府に提出。しかし、宣教師を教師として雇うことは文部省通達に違反する、また、仏教徒の反対運動の高まりから許可が下りなかった。急ぎ新島は上京し、折衝相手の文部省に三日間交渉し、事実上の最高責任者、田中不二麿の「許可不苦（許可しても苦しい）」を得た。こうして、キリスト教主義官許同志社英学校は京都の地に誕生した（一八七五年九月四日認可）。

一八七五年十一月二十九日、仮校舎（現在の新島会館）でアメリカン・ボード、山本覚馬らの協力を得て、開校式を開いた（教員は新島とデイヴィスの二人、生徒八名）。新島三三歳、かねてから婚約していた山本八重（三一歳）と一月三日に結婚式をデイヴィス宅であげた。



1876年（明治9年）、相国寺門前の同志社英学校最初の校舎。第二寮一階広間で明治16年6月に第一回卒業式が行われた。また、明治13年4月に新島校長の自責の杖事件が起こった。

九月十二日校舎二棟が完成。この前後に熊本洋学校に学んだ生徒がジョーンズの斡旋で同志社に相次いで入校してきた。彼らは数の上では元からいた生徒より少なかったが、学問的水準の高さと気の強さでは彼らと比べて群を抜いていた。ジョーンズの厳しい教育のお陰で英語の書物を読みこなし、キリスト教の他に化学、物理などの知識も身に付けていた。彼らは開校間もない同志社英学校の程度の低さと設備のみすばらしさに失望し、以前からいた生徒を軽蔑し、元氣者（肥後もっこす）を変わり者、奇人、変人と型にはめて指導することなく、萎縮させることなく、将来『天下の人物』に育って欲しいと訴え、彼らを抑圧することはなかった。なお同志社には、彼ら元氣者の影に隠れて目立たない

が、コツコツと自学自修に励み、自分で考え、批判し、何が正しいかを常に探求する人間、『自治自立』の学生も育っていた。^{注③}

一八七七年、三四歳、同志社女学校（後の同志社女子大学）開設。しかし、アメリカ女性宣教師二人の滞在認可が下りず、新島は外務卿の寺島宗則と交渉するが難航。森有礼の援助でかろうじて許可が下りた。

一八七九年、三六歳の二月、同志社大学設置の協力を得るべく上京した新島は、旧友津田仙を介して二人で勝海舟^{注④}を訪問している。海舟が「大学を作ることには大変な事業であるが、何年くらいかかれば完成するつもりか」との問

いに、「わが国には宗教を土台とする大学を設立する必要がある、そのためには凡そ三〇〇年ほどのつもりである」と応えている。勝は、「よし、それなら賛成してやる」と返している。一八七九年、六月十二日、英学校第一回卒業式^{注⑤}を

第二寮で行う。全員が予科生（神学科）十五名（熊本バンド）。翌年、一八八〇年、四月十三日（三七歳）、自責の杖事件

^{注⑥}起こる。一八八四年（四一歳）、二度目の海外旅行^{注⑦}に出発（翌年帰国）。一八八六年（四三歳）、仙台に同志社分校の宮城英学校（翌年、東華学校と改称）を仮開校。四四歳、同志社病院開院式、京都看護婦学校開校式を行なう。

一八八八年、四五歳、知恩院で京都の名士を招き大学設置について支持と理解を求めた。十一月には「同志社大学設立の旨意^{注⑧}」を「国民之友^{注⑨}」他全国の主要な雑誌、新聞に発表。国民の手で設立された私立大学は自治、自立の

国民を養成する点で意義があり、「一国の良心」ともいうべき人たちを育てることが目的である。このように同志社教育の原点は「良心」にあり、同志社では良心教育に基づく人間の育成をめざしている。

一八八九年（四六歳）、募金運動中に前橋で倒れ、静養先の神奈川県大磯の旅館で、八重たち^{注⑩}に見とられながら

一八九〇年一月二三日午後二時二十分永眠（四六歳十一月）。一月二七日同志社チャペル前広場に天幕を張り、葬儀を営み、東山若王寺山頂に葬る（墓碑銘は勝海舟筆）。同志社は多くの苦難を乗り越え、一九二〇年（大正九年）の大学令によって、正式に「同志社大学」となった。

注釈

注① 家長新島弁治の孫として誕生。父は民治、母はとみ。姉四人の下に生まれた。祖父は男の子の誕生を喜んで、「しめた！」と叫んだことで、七五三太と命名された。譜代大名家とは代々徳川家に使えてきた家臣をさす。

注② 国禁の書とは幕府が読むことを禁止した書籍をいう。例えば聖書やアメリカの歴史地理を読むと死罪となるという状況にあっても強い向学心から七五三太は杉田廉卿、吉田賢輔、津田仙らの聖書学習会に参加した。

注③ ハーデー夫妻に書いた手記で脳みそが頭からとろけ出そうになるほど驚嘆した（略現p.50）とある。

注④ 海外脱出、密航は命懸けで捕まれば本人は死罪、後述（3頁）の沢辺琢磨、富士成豊、あるいは菅野精一郎、塩田虎尾たちも死罪を覚悟の協力であった。

注⑤ 水杯は二度と会えそうでない別れの時などに、酒の代わりに水を飲み交わした。

注⑥ 新島の五歳上の富士卯之吉はアメリカからの新島の手紙を江戸の父親に中継するなどその後も関わっている。なお当時の函館の様子を新島は、薬師山（箱館山）の麓にロシア、イギリス、アメリカ、フランスの館が立ち並び、太陽に照らされた白壁、風にひるがえる紅色が人の目を楽しませ、港には英国船三隻、アメリカ船二隻、日本船は快風丸を含め三隻、日本の商船四、五十隻も停泊。外国の国旗が領事屋敷にাগり非常にきれい」と日記に表し、司祭ニコライの紹介で塩田と訪れたロシアの病院で、新島は建物や診察室、治療室、病室、ベツト数や食堂、薬の調合所等配置図を描き、また患者の服装、シーツや布団、食事内容、治療入院費無料などを詳しく書いている。日本の病院はいかに貧弱で金持ち向けかを訴え、ロシアの先を見越した政策に対してわが国は何故できないか、と強く批判している（新略四頁）。富士は一八六八年（二五歳）苗字帯刀を許され、名を成豊

と改めた。イギリス人プラキストンから機械、博物学を学び、北海道の測量や気象観測で指導的役割を果たした。

注⑦ 福士は新島のために前もって小舟を借り、この日のために三度ほど波止場のあたりを予行演習していた。

注⑩ 幸い香港に戻った。日本の金で買えなかった中国語の新訳聖書を手に入れた。テイラー船長に、この小刀を八ドルで買ってくれないかと頼み、船長の許可を得て、中国人の本屋で新約聖書を買うことができた。一八六九年夏休み（二六歳）には船長宅で過ごしたが、十二月に船長がボストン港で事故死したことを聞き、新島は葬式に駆けつけている。なおベルリン号は三トンに対し、大型帆船、ワイルド・ローバー号は二トンであった。

注⑫ セイヴオリー船長は新島の密航に協力し、函館から上海まで上船させた。しかし、そのことが会社に知れ、その後クビになって、ボストンから五〇kmの海沿いの町、セーレムの郷里に戻っていた。セイヴオリーはボストンに新島を訪ねたとき、この事実を新島に話さなかった。

注⑬ ハーディー夫妻は新島から話を聞こうとするが、言葉が通じない。そこで、新島の経歴、日本密出国の動機、これから先どうしたいのかを文章にまとめるように言い、船員会館に泊め、新島は三日間かけて手記を書き上げた。「脱国の志」はたどたどしい英語で、「自分は遙かな海路もいとわずにアメリカにやってきた。学問について学業を収め、キリスト教を学び、国家の不振を心から憂い、自分は微力ですが、役立てようと国禁を破つて、藩主や父母兄妹と別れ、思い切った異常な行動に走り、ひたすら天運に任せ、貴国アメリカに来ました（略現ま頁）」という内容で、夫妻はいたく心を動かされた。幸いなことに資産家で名士のアルフェース・ハーディー氏は教育熱心でフィリップス・アカデミー（自身は病気で中退）、アマースト大学・アンドーバー神学校の理事を務め、襄が大学、神学校と進むにつれ、自分が果たせなかった勉学や牧師となる夢を襄に託すようになった。

注⑭ アンドーバーの町にはフィリップス・アカデミー、隣にアンドーバー神学校やアンドーバー教会があり、西にはキリスト教精神に満ち溢れたアーマスト大学がある。新島は質素、清純、厳格な生活態度、デモクラシー、自由を肌で感じ、自分でも質素、清純、厳格に徹し、生涯酒を飲まなかった。自由主義、民主主義、主権在民を身に付け、トップダウン方式の明治政府のやり方でなく、キリスト教とデモクラシーを国造りの柱とするボトムアップ方式により自治自立の国民の国家をめざしたいと考えようになった（加賀、二〇二五）。

注⑮ フィリップス・アカデミーは、超一流の全寮制の男子進学校として知られる。会衆派教会系の学校で、ピューリタン色が極めて濃厚であった。教育目標は『人生の偉大な目的と真の営み』を生徒に自覚させ、『真の敬虔、徳の増大』とを図ることにある。卒業生には道徳性発達段階説で世界的に著名な学者、コールバーグ博士（一九二七～一九八七）、四一第一・四三第アメリカ合衆国大統領のジョージ・ブッシュ親子がいる。

注⑯ アーマスト大学は全米最高峰のリベラルアーツ・カレッジである。世界中から極めて優秀な学生を迎え、多様性を重視した教育実践を行っている。同志社大学では「アーマスト大学」と表記している。日本の外務省は、一九二〇年代より英語研修を命じた新人のキャリアや外交官を毎年留学させている。ノーベル賞受賞者や著名人が数多く輩出されている。新島はクラーク博士（札幌農学校初代教頭）から化学を習っている。博士が大学を去るときに発したことば、『少年よ大志を抱け、Boys, be ambitious』は有名である。

注⑰ 森有札は薩摩藩英国留学生として公費で一八六五年、五代友厚らとイギリスに密航。ロシアやアメリカを経て明治政府が誕生した一八六八年に帰国。一八七〇年、明治政府が海外に派遣した最初の外交使臣である。一八八五年第一次伊藤内閣では初代文部大臣に任命される。教育制度の確立に尽力。

注⑱ 桂小五郎を一八六五年に木戸孝允に改名（藩主より『木戸』を賜る）。一八六三年、藩命により長州藩の公費

で伊藤博文、井上馨らと共にイギリスに密航。一八六四年帰国。ワシントンで二度ばかりゆっくり話し合う機会があり、それ以降親交を深めており、新島襄の大学設置を支援。

注⑱ 新島は岩倉使節団の一員、田中不二麿の秘書役（通訳・翻訳者）として行動を共にした。最初に辞令を交付されたが、これに対して新島は、日本政府から生活費を支給されている訳でなく、命令を受ける立場にない。しかし一定の報酬を与えられ、これこれをやって欲しいと望まれた場合には喜んでやります、と答えた。アメリカ東部の視察について、報酬として、年二四八四ドル、他に、日当五ドルが用意された。これは思いがけぬ大金で、新島は祖国の老父を喜ばそうと報酬の一ヶ月分に当たる二〇〇ドルを送金すると手紙を出している。当時の一ドルは日本円の一円と同じ値打ちで、現在の一四九〇円に当たる。

注⑳ 新島はベルリンの宿舎で、各国の教育事情に関する資料の整理と翻訳に精力を傾けた。この時の労苦をもとにして作成されたものが、一八七三年から七五年にかけて発行された文部省編『理事功程』である。これは、明治政府の教育制度に大きな影響を与えた。

注㉑ 五〇〇〇ドルの寄付集めで新島が最も感動したのは、帰りの汽車賃を含め二ドル全額を差し出した貧しい農夫や会場の外で待っていてそつと二ドルを手渡してくれた老夫婦の献金だと、後日何度も語っている。

注㉒ 十月十九日、ハーディー夫妻、ノースロップ教授、イエール大学長ポーター教授がニューヘイブン駅まで見送りに、ハーディー夫人は餞別とは別に私的にと五十ドルを持たせてくれた（略現二五頁）。

注㉓ 新島が上州安中（群馬県）に戻ってから四年後の一八七八年に安中教会が設立され、そこで三〇人が新島より洗礼を受けた。翌年海老名弾正（熊本バンド）が初代牧師に就任、一九四七年には新島学園が開校した。

注③② 山本覚馬は、会津藩の砲術師範の家に生まれた。戊辰戦争に従事し薩長軍に捕らえられ、「朝敵」として薩摩藩邸に幽閉されたが、洋学所の開設の功などで、明治二年に幽閉が解かれた。この幽閉中に建白書『官見』を口述筆記し、薩摩藩主・島津忠義に上程したが、これは政治、経済、教育等二二項目にわたり将来の日本のあるべき姿を論じたもので、明治政府の政策の骨格ともつながっている。この後、京都府顧問、知事の榎村正直の相談役となっていた異才の人物で、教育、産業、社会的道德において多くの功績を残した。京都市内全域に小学校を設置したのも彼の功績の一つである。盲目の山本は宣教師のゴードンから漢訳の「天道遡源」、アメリカ人、マーチン著」を贈られ、音読してもらい、何度も聞き、「キリスト教に抱いていた疑問がすっかり解けた」と、自分で四、五冊を購入し、友人に配り、一読をすすめるほど熱心だった。

注③③ 同じ年神戸の山本道（現在の神港学園の場所）に女学校（後の神戸女学院）が開校となったが、当時外国人による土地所有が認められなかったので、この学校の土地名義人はアメリカンボードの宣教師、新島襄であった。また神戸の地、特に有馬へは八重を伴って新島襄はリュウマチや心臓病の治療に何度も訪れている。

注③④ 山本八重は会津藩の砲術師範の家に生まれた。戊辰戦争では、断髪・男装して、スペンサー銃と刀を持って奮戦したが、敗戦後、覚馬を頼って上洛した。兄の推薦により京都女紅場（後の府立第一高女）の権舎長・教道試補となる。あるとき、新島が、京都府知事の榎村正直から「あなたは妻君を日本人から迎えるのか、外国人から迎えるのか」と聞かれて、「外国人は生活の程度が違うから、やはり日本夫人をめとりたいと思います。しかし亭主が、東を向けと命令すれば、三年でも東を向いている東洋風の婦人はご免です」と答えている。榎村は「実は女紅場への援助をたびたび求めに来る女性がいるのだが、彼女はどうかだろう？」と、八重を紹介している（『新島八重子回想録』）。結婚に際して新島が望んだことは、外面の美しさでなく「心がよくて、教養の

ある人」である。八重を妻にしようと決めた出来事は、夏の日、襄が覺馬を訪ねていくと、中庭で井戸の上に板戸を敷き、その上に座って縫い物をしている八重の姿を見て結婚を決めたという逸話がある。養母ハーディーに宛てた手紙の中で八重のことを、「彼女は見た目は、ハンサムではありません。ただやることが非常にハンサムなのです。私が彼女について知っているのは、美しい行いをする人だということです」と伝えている。新島の眼には八重の立ち振る舞に、彼が考え、実行してきた「自治自立」の精神を見たように思われる。欧米流のレディファーストが身に付いていた襄と、男勝りの性格だった八重は似合いの夫婦であったという。しかし夫をかずらせ、車にも夫より先に乗る姿を見た当時同志社の学生だった徳富猪一郎は彼女に鶴というあだ名をつけ、世間からは「悪妻」と評された。しかし夫婦仲はとても良く、夫の襄はこの時期にアメリカの友人への手紙で「彼女の生き方はハンサムなのです。」と書いている。なお八重は結構式の前日、デイヴィスから洗礼を受けて、結婚式に臨んだ。

注③⑤ 元北軍の軍人、ジョーンズの指導（授業は全て英語）を受けた学生がキリスト教に目覚め、一大騒動が起り、熊本藩の熊本洋学校が閉鎖され、卒業生と在校生のうち約四〇名がジョーンズの斡旋で同志社に、転入学してきた。このため急ぎ「予科（神学科、バイブルクラス）」を新設し、秀才達の受け皿とした。彼らは宣教師から『熊本バンド』と呼ばれた。卒業後牧師となつて各地に教会を建てた。思想家や同志社社長もいた。

注③⑥ 新島は優秀で元氣者の『熊本バンド』の学生を「倜儻不羈」と呼び、決して抑圧しなかった。

注③⑦ 官許同志社英学校では心理学（心理学）の授業が行なわれており、この影響を受けた一期生の元良勇次郎は、留学してジョンスホプキンス大学のスタンレーホールに師事し、文科（東京帝国）大学の初代教授となり、一九八九年に心理学実験場を開設した。後輩の松本亦太郎は、東京帝大哲学科に進み、イエール大学、ライブ

ツイヒ大学に留学し、一九〇六年に京都帝国大学の初代教授となり、心理学講座を開設した。なお元良に続いて入学した中島力造は後に元良と同じ文科大学の教授として倫理学講座を担当し、わが国の倫理学研究に先駆者として貢献した。また同期の上野栄三郎は新島に英語や数学を学び、新島の勧めで上京し、一八七八年（明治二年）津田仙に招かれ仙の経営する学農社農学校で数学を、銀座簿記夜学校で簿記法を教え、実業家として多くの仕事をした。彼らは熊本バンドの一团と異なり、常に自修独学していた。

注③⑧ 勝海舟は山本覚馬と共に若い頃佐久間象山の塾で学んでおり、勝の妹順子が象山の妻という関係にあり、勝は象山の遺児の世話を覚馬に任すという関係にあった。覚馬の妹、八重の夫、襄が進める大学設置に対して、「あせるな、急ぐな」といって、助言し、協力している。勝は、「日本を良くするには五百年くらいかかる。新島のようにあんなに急いでは命がもたぬ」と徳富蘇峰（本名猪一郎）に漏らしていた。

注③⑨ 新島は「Go, go, go in peace. Be strong ! Mysterious Hand guide you」と卒業生を祝した。

注④⑩ 同志社では学力の違いから年度途中の入学者を下級組、正規入学者を上級組とし、分けて授業をしていた。学校側がそれだと不経済だからと判断し、布教活動で新島校長が不在の時、年度途中から学生数が少なかった二年生の上級組と下級組を合併して授業することを決定した。この決定に納得のいかない二年上級組が反発してストに突入した。これを巡ってどのような処分を下すべきかで悩んだ新島は、不平組を呼び集め説得し、また黒幕の徳富猪一郎とも話をした。その後、先導組も入って出された嘆願書は、下級の者を優遇して卒業の時期を早めるのであれば、上級の者にも予定より早く3年生に上げて欲しいという内容で、九名の署名の中には新島校長の義理の甥、津田仙の長男、徳富の弟健次郎があった。思い悩んだ新島校長が下した判断は自身の処分、「自責の杖」事件である。全校礼拝の席（第二寮一階）で、持っていた杖が折れるほど自分の手のひらを強打

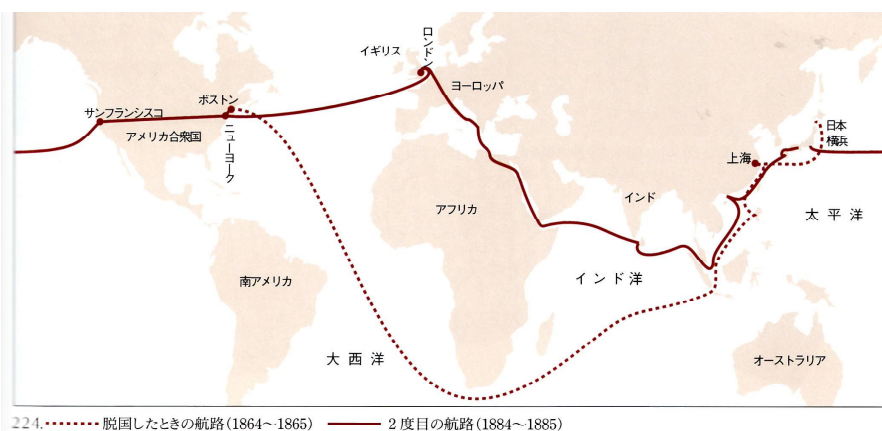
した。『今回の紛争は学生や教師の責任ではない。全ては校長たる自分の落ち度、責任である。よって校長を罰する』。この新島の判断は平民主義、民主主義を反映している。しかし、黒幕の徳富猪一郎は、この混乱の責任を取り一月後の卒業を前に、新島の説得にも拘わらず退学した。徳富猪一郎は熊本バンドの一人、東京に出て師を探したが感触なく、新島先生の名を聞き、京都の新島校長宅を訪れたのが十四歳、新島三四歳、それ以来、徳富猪一郎は新島裏を師と仰ぎ、敬愛の念は生涯変わらず、新島の手足となり、力となった。

注④① 二度目の外遊は療養目的と大学設立募金集めで四月に出発し、歴訪地、イタリア、スイス、ドイツ等を経て九月にニューヨーク着。日本には翌年十二月帰国した。下図は脱国の航路と二度目の航路である。

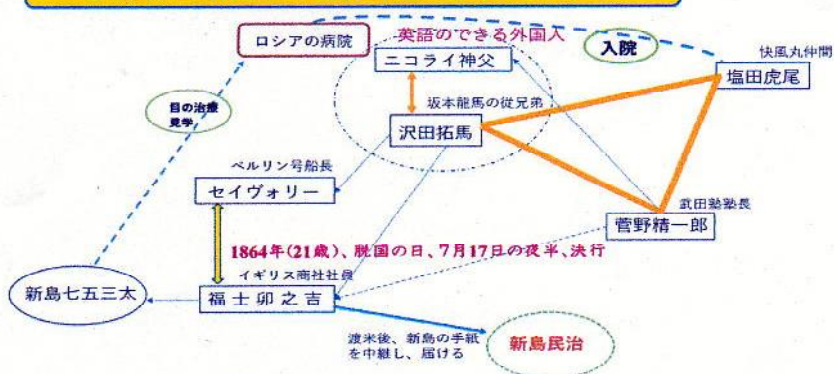
注④② 「同志社大学設立の旨意」は、新島が健康悪化のため、信頼する徳富猪一郎（蘇峰）に資料を送り、起草を依頼して完成したものである。

注④③ 「国民之友」は月刊誌で徳富蘇峰が主宰して一八八七年に東京に設立された。

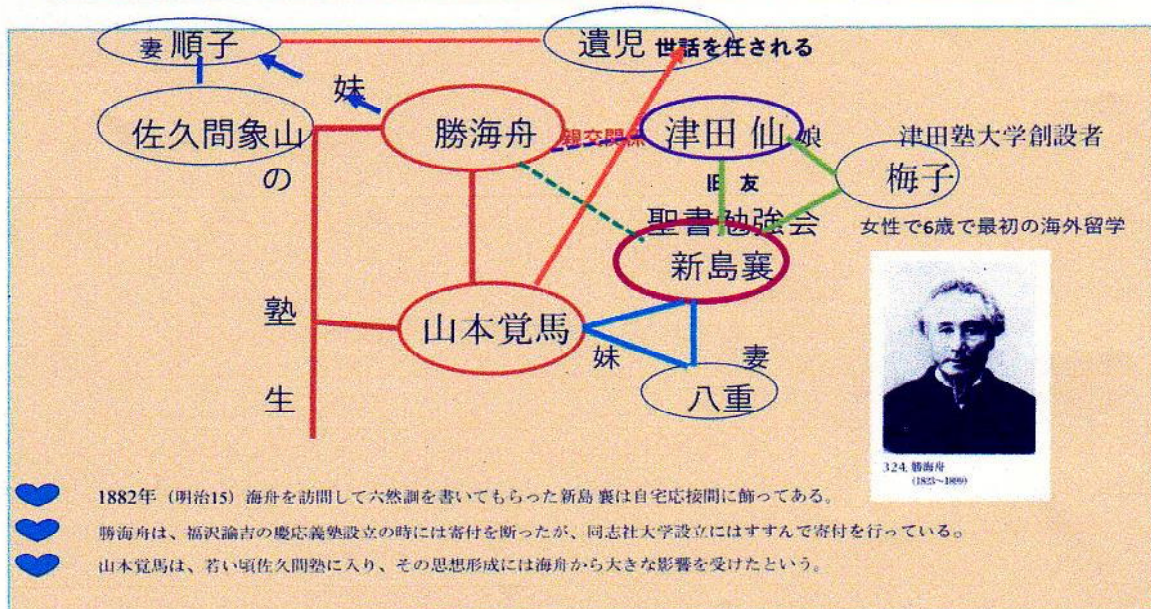
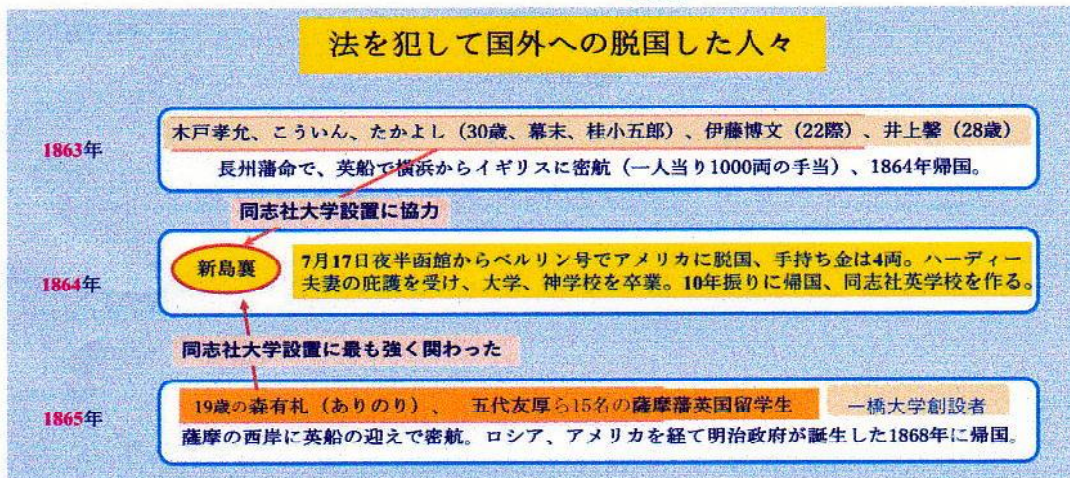
注④④ 新島裏の臨終に立ち会った徳富蘇峰は、八重に「私は同志社以来、貴女に対してはまことに済まなかった。しかし新島先生が既に逝かれたからには、今後貴女を先生の形見として取り扱いますから、貴女もその心持を以て、私につきあって下さい」と述べ、八重が亡くなるまでその言葉通りに接し、相談に乗った。八重はその後日本赤十字の篤志看護婦らの地位向上に献身し、新島宗竹という名で茶人としても活躍。八六歳没。葬儀は徳富蘇峰の協力により「同志社社葬」として行われた。



函館で新島の脱国を助けた人々



法を犯して国外への脱国した人々



海舟は、別邸洗池軒で最期を迎えました。戦後、跡地に私が最後に校長を務めた大森第六中学校が建っています。その場所は富士が見える高台にあり、日蓮聖人が足を濯いだと言われる洗足池も一望できるところです。勝は西郷隆盛と池上本門寺で会見する際、通りがかったその景色を愛でて、後日別荘を建てたということです。その土地購入の仲介をしたのが津田仙でした。勝とその妻民の墓は、六中の側にあり、毎週、六中生が掃除をしています (松尾廣文)。

(参考)

新島襄を支えた人々の相関図

(参考 一) 良心教育がめざす生き方について、(荒木、二〇二三、より引用)

①「キリスト教主義と良心」

新島は同志社の教育目的を、「同志社大学設立の旨意」の中で次のように述べている(一八八八、明治二十一年)。同志社設立のその目的はただ単に普通の英学を教えるだけでなく、徳性を磨き。品性を高尚にし、精神を正しく強めるように努め、ただ技術や才能のある人物を育成するだけでなく、一国の精神となり、元氣となり、柱石となる所の人々、いわゆる良心を手腕に運用する人物を(良心を全身に充滿したる丈夫^{ますらお})^{注1}を生み出すことに努めてきた。しかしこのような教育は知育のみで決して達成できるものでない。神を信じ、真理を愛し、他者に対する思いやりの情に厚いキリスト教の道德によって、初めて可能になる(知徳並行主義)と考え、キリスト教主義を徳育の基本とした。「キリスト教主義は実に我が青年の精神と品行とを陶冶する活力をもつ」と考えたからである。このように同志社教育の原点は「良心」にある。これは「人間の目」ではなく、「神の目(至高の善)」を意識して初めて芽生えるもの(三水準六段階の道德性の発達、脱慣習的水準、自律的・原則的水準)である。

【註釈】

注1 この「良心を全身に充滿したる丈夫の起り来^{きたり}たるん事を」は、新島襄が二八九年二月に学生の横田安止に東京から宛てた手紙の一節で同志社大学正門の石碑に刻まれている。新島は自由教育とキリスト教主義の教育によって、日本の近代化に役立つ人物を育成するために同志社を創立した。当時政府は天皇・国家に忠良な臣民、高級官僚の育成をめざしていた。それに対して、新島は自己のうちに価値尺度を持ち、良心に従って生きる自治自立の人民を育成しようとした。この言葉は新島の人間観、教育観をよく表わしている。



②「一国の良心」

この同志社大学からは政党に加入する者ができるかも知れない。あるいは農業、工業、商業に従事する者ができるかも知れない。あるいは宗教のために働く者ができるかも知れない。あるいは学者となる者もあろう。公務員となる者もあろう。「彼らによって」達成されるものはさまざまなので、あえてあらかじめ定めることはできない。とはいうものの、これらの人たちは皆一国の精神となり、活力となり、柱石となるべき人たちである。すなわちこうした人たちを養成するのが、実に同志社大学を設立する目的なのである。一国を維持するのは、決して二、三の英雄の力ではない。実是一国を形成する、教育があり、知識があり、品性の高い人たちの力によらなければならない。これらの人たちは「一国の良心」とも言うべき人たちである。そして私たちはこの「一国の良心」ともいうべき人たちを養成したいと思う。私たちの目的は実にここにある（同志社大学設立の旨意、現代語で読む新島襄、二二四頁）。

同志社総長大谷實（二〇〇五）は、新島の良心教育について、「仰いで天に恥じず、伏して地に恥じない」公明正大な人間を、教育によって排出することである。その意味で、同志社の学生は、豊かな教養を身につけ、それに基づいて善悪の判断を的確にし、勇気をもって良心的行動に徹する努力をし、倫理・道徳に強い人になって欲しい。そうなることが、喜びにあふれる生活を導き、「一国の良心」となり、本当の意味での幸福につながる。この「一国の良心」に求められているのは、コールバーグ理論に基づく、段階4に見られるように、問題の解決を「法律遵守、社会秩序の維持」に収束するのではなく、国を支えるために自分の考える倫理的原則に従って、民主的な手続きによる変革も辞さない強い心構えの考え、段階5を想定したものである。

③ 「自治自立」

京都府知事の横村正直から「あなたは妻君を日本人から迎えるのか、外国人から迎えるのか」と聞かれて、「外

国人は生活の程度が違うから、やはり日本夫人をめとりたいと思います。しかし亭主が、東を向けと命令すれば、三年でも東を向いている東洋風の婦人はご免です」と答えている。楨村は「実は女紅場への援助をたびたび求めに来る女性がいるのだが、彼女はどうかだろう？」と、八重を紹介している（『新島八重子回想録』）。結婚に際して新島が望んだことは、外面の美しさでなく「心がよくて、教養のある人」である。八重を妻にしようとした出来事は、夏の日、襄が覚馬を訪ねていくと、中庭で井戸の上に板戸を敷き、その上に座って縫い物をしている八重の姿を見て結婚を決めたという逸話がある。養母ハーディーに宛てた手紙の中で八重のことを、「彼女は見た目は、ハンサムではありません。ただやることが非常にハンサムなのです。」と伝えている。

新島の眼には八重の立ち振る舞に、彼が考え、実行してきた「自治自立」の精神を見たように思われる。

④ 「在野精神」

「在野」ということばが耳に残ったまま卒業して今日に到っているが、改めて、その意味を辞書で調べた。

「公職に就かず民間人である」とあったが、それは正に新島の生き方を表わしたことばである。文部理事官の田中不二麿は二度に渡って、新島に官職に就くことを誘っているが、何れも断っている。一度目は、アメリカ東部とヨーロッパの教育視察を終えた後の一八七二年ベルリンの宿舍で、帰国して一緒に教育行政に当たることを懇願され、二度目が一八七五年田中が京都を訪れ、三日間新島を口説いているが、「君はキリストの奴隷だ」と言っ席を立った（和田、一九七三）。森有礼（当時駐米公使）からの国費留学生にしたいとの申し出を受けたが、新島はこの申し出を断っている。その理由として日本の政府に束縛されるよりも、「むしろ自由な日本の一市民（a free japanese）のままできて、主の御業に私のすべてを捧げたいからだ」と述べている（加賀、二〇一五）。

このように、新島は政府に束縛されるよりも自由な一市民でありたい（自由主義）と考え、top-down方式の明

治政府のやり方でない、キリスト教とデモクラシーを国造りの柱にする bottom-up 方式によって、自治自立の国民が中核となって形成された国家をめざした。このために、新島は私立大学を「人民の手に拠^よって設立」することを考えた。当時大学とよばれるものは、官立の東京大学一校のみでした。これに抗して、全国の賛同する民間人の手によって、つまり自発的結社という新しい組織原理によって大学を創ろうとした。自発的結社といえ、同志社」つまり志を同じくする個人の約束による結社³という名前自体この理念を表わしている。

⑤ 「地の塩」、[世の光]

新島は徹底的にイエスの心を心として生きた人でした。高き志の実現に激しい情熱を燃やし、忍耐強く、誠実で他者を思う心が豊かでした。彼は生徒の価値可能性を信じ、個性を大切にし、クラスで一番出来の悪い生徒に特別の注意を払い、彼らを極みまで愛する教育者でした。このような人間・キリスト者・教育者新島の背中を見て当時の生徒たちは成長していった（井上、二〇〇七）。

「私がもう一度教えることがあれば、クラスの中でもっともできない学生にとくに注意を払うつもりだ。それができれば、私は教師として成功できると確信する」（『現代語で読む新島襄』現代語で読む新島襄編集委員会、一七九頁、原文は英文）。この新島の思想を受け継ぎ、その教え子であった留岡幸助（牧師）、山室軍平（伝道師）、中村遙（伝道師）らが、未だ福祉制度すら整っていない明治時代の封建社会や富国強兵の価値観で固まっていた社会に抗って、貧しさと飢えに苦しむ人たち、非行少年たち、孤児たち、売春を強いられた少女たち、というような社会から忘れられ、国家ですら見捨てたような「小さい」人一人ひとりの救済に福音の灯を掲げて「地の塩」として近づいていった。これが、歴史家も認めるとおり、結果として近代の日本の社会福祉の基礎をつくったのである（木原、二〇〇三）。「あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である」、目立たないで人

のためになる灯台やロウソクの光のように、闇の夜に輝き、暗き道を照らして人びとを助け、導きなさい。これが同志社の伝統なのです。同志社から内閣総理大臣が出るのもいい、しかし世界で困っている人たちに手を差し伸べる「底辺に向かう志」をもった人びとがこの同志社からどんどん生まれることが、今、強く求められているのではないかと思います（井上、二〇〇七）。ここに上がった三人、留岡幸助、山室軍平、中村遙の生き方を象徴している聖書のことば、「地の塩」「世の光」はコールバーグの道徳性の発達段階で見ると、段階5の人権と社会福祉の道徳性の段階にあると推定できる。

⑥ 「諸君よ、人一人は大切なり、一人は大切なり」

「諸君ヨ、人一人ハ大切ナリ」という、新町校地の建物の壁面に刻まれていることばは、新島襄が一八八五（明治一八）年に、同志社英学校創立十周年の記念式典の式辞の中で、「思わず」発したことばである。一八七四（明治七）年、十年ぶりに帰国した新島が一八九〇（明治二三）年、四六歳十一ヶ月の若さで亡くなるまでの十五年間の活動の根底には、彼の「人一人ハ大切ナリ」の精神が貫かれていた。彼に学んだ卒業生たちの回想をふりかえり、新島の「人一人ハ大切ナリ」の実践が学生の生き方に大きく影響したかを、同志社大学教授木原活信教授（二〇〇三）は、「月刊いのちのことば、一二月号」に次のように紹介している。倜儻不羈^{てきとうふき}なる書生（梓にはまらない自由人）というのは才能が豊かで、個性が強く、独立心が旺盛で、普通の尺度では律し難い学生のことですが、教育者新島襄にとっては、やる気を失った学生も、クラスで一番出来の悪い学生も、個性が強く梓からはみ出した学生も、一人ひとりを大切にすることを実践した。

新島はすべての人の人間としての権利や価値を平等に尊重することを身をもって示しているが、このような倫理的原則を学生たちが自分なりの道徳性（段階五）に発達させることを強く願っていたと言える。

【引用・参考文献】

- 荒木紀幸 2023 「新島襄が考えた良心教育とクールバークの道徳性発達段階」道徳性発達研究 16 (1) 46-60. 日本道徳性発達実践学会
- 荒木紀幸・堀田泰永・棚澤実・松本朗 編 2015 考える道徳を創る「私たちの道徳」教科別ワークシート集 1・2年編 明治図書
- 荒木紀幸・堀田泰永・棚澤実・松本朗 編 2015 考える道徳を創る「私たちの道徳」教科別ワークシート集 3・4年編 明治図書
- 荒木紀幸・堀田泰永・棚澤実・松本朗 編 2015 考える道徳を創る「私たちの道徳」教科別ワークシート集、5・6年編、明治図書
- 荒木紀幸・松尾廣文・荊木聡・棚澤実 編 2015 考える道徳を創る「私たちの道徳」教科別ワークシート集 中学校編 明治図書
- 荒木紀幸 2014 生き方モデルは指針となりうるか、「授業力&学級統率力」No.35 8月号 12-14. 明治図書
- 梅花女子大学ホームページ 2023 大学事始編纂室
- 同志社校友会 編 1967 「新島先生記念集」第4版 同志社校友会
- 同志社大学「現代語で読む新島襄」編集委員会 2000 現代語で読む新島襄（略現）丸善
- 同志社大学ホームページ 2023 「同志社大学設立の旨意」、「良心教育と教育理念」、「キリスト教主義教育」、「建学の精神と新島襄」、「新島襄のことば」、「新島八重と同志社」など
- 学校法人 同志社 1997 「新島襄ーその時代と生涯」同志社大学
- 枝澤康代 2021 〈研究ノート〉明治創設期の神戸女学院（神戸ホーム）と同志社女学校（京都ホーム）ーアメリカン・ボード女性宣教師によるリベラル・アーツ教育 Asphodel 56巻 108-130頁. 同志社女子大学英語英文学会
- 布施田哲也 2012 「新島襄が初めて読んだ漢訳聖書抜粋『真理易知』について」新島研究 (103), 48-65, 同志社大学同志社社史資料センター
- 保阪正康 2012 八重と新島襄 毎日新聞社
- 三好 彰 2024 新島研究 第115号 61-73. 同志社社史資料センター
- 本井康博 2012 特別寄稿 「同志社の完成は三百年」ー新島襄と津田仙ー 同志社時報 133号 58-65. 精神と新島襄」、「新島襄のいっぽう」、「新島八重と同志社」など
- 本井康博 2017 特別寄稿 「同志社の完成は何年かー新島・海舟座談の謎を解く 同志社時報 143号 64-71.
- 伊藤彌彦 2014 新島襄と徳富蘇峰ー蘇峰再評価の動きの中へ24-29. 同志社 spirit week レクチャー
- 井上勝也 2007 同志社の伝統を受け継いだ社会事業家ー留岡弘吉・山室軍平・中村遙の生き方 同志社スピリット・ウィーク「講演」記録
- 井上勝也 2015 新島七五三太は何故国禁を犯して密航を企てか 新島襄海外渡航150周年記念シンポジウム「新島研究」第106号 37-59. 同志社社史資料センター
- 井上勝也 2018 「新島襄の北欧教育視察 基調報告」新島研究 第109号 3-12. 同志社社史資料センター
- 井上勝也 2021 エッセイ「私の理解する新島襄」 新島研究 第112号 53-63. 同志社社史資料センター
- 加賀裕郎 2015 「私学同志社の教育思想ー自由主義・平民主義・キリスト教主義を中心にー」シンポジウム2 私学の思想史報告論文、現代教育フォーラム 24巻 102-110. 教育思想史学会
- 木原活信 2003 福祉と福音ー弱さの富士哲学第4回、「諸君ヨ一人一人ハ大切ナリ、新島襄の実践 月刊いのちのことば、12月号 いのちのことば社

- 新島八重 2021 永澤嘉巳男編集 新島八重子回想録復刻版 同志社社史資料センター編 同志社大学出版部
- 小原克博 2024 同志社大学 講義「良心学」第2回「新島襄と良心——その生涯をたどる」 YouTube アップロード (2014.4.14)
- 佐野安仁 1988 元良勇次郎 同志社人物誌 (62) 同志社時報 第85号 86-91.
- 佐野安仁 1993 キリスト教主義から学ぶこと—新島襄の教育理念から 同志社時報 第95号 54-60.
- 高岸雅子・飯塚真理 2020 同志社建学の精神教育の盲点と海外から来た「ミニ新島襄達」：日本語・日本文化研究センター「同志社を学ぼう」同志社建学の精神と新島襄の生涯」9年間の授業から考える 同志社大学 日本語・日本文化研究 第17号 113-145.
- 竹田敏彦 2021 16章 新島襄の「良心教育」に学ぶ 竹田敏彦(監)グローバル化に対応した教職論 217-230. ナカニシヤ出版
- 田附俊一 2014 日本の体育小史—新島襄と同志社の関わり— 同志社健康スポーツ科学紀要 6・72-80.
- 谷口義子 2013 「襄と八重 癒やした神戸、同志社創立者は大河ヒロイン 有馬・垂水で療養、休憩、神戸女学院校地所有にも協力」神戸新聞 8月29日朝刊記事(藤村有希子)
- 谷口義子 2013 おもしろ有馬学 新島襄・八重は有馬温泉のファンだった? KOBECCO 11月号 兆楽亭講演会より
- 富田正樹・山本真司 2015 「新島襄物語—良心に向う志」 新教育出版社
- 歌川光一・鈴木翔 2016 登場人物に見る「私たちの道徳」の特徴—その活用方法及び留意点を視野に入れて—名古屋女子大学紀要 63(人・社) 185-194.
- ウィキペディア 2023 新島襄、徳富蘇峰、沢田数馬、福土成豊、フィリップス・アカデミー、アマーフト大学、澤山保羅、
- 湯浅康毅・内村公春・石川立 2016 鼎談：「熊本バンド」を語る レクチャー 同志社フェア 熊本 記念講演会 55-65.
- 吉田曠二 2015 新島襄はなぜ、函館から国禁を犯して海外に脱出したのか? —「ロビンソン・クルーソー」と新島襄—新島襄海外渡航150周年記念シンポジウム」新島研究 第106号 26-36. 同志社社史資料センター
- 和田洋一 1986 「新島襄」5版(略新) 日本基督教団出版局

謝辞

本論文で使った新島襄関連の写真は、新島襄—その時代と生涯、学校法人同志社、発行からの引用である。集録 番号は 39、40、47、126、224、406 である。記してお礼申し上げます。